

新年講話

新年あけましておめでとうございます。今年が諸君にとって飛躍の年であることを祈っています。

年末は特に穏やかな日々が続きましたが、元旦に全国的に雪がたくさん降ってびっくりしました。127年前本校が創立したはじめての冬、三好愛吉初代校長先生の提案で全校生徒申し合わせて一冬暖房を断ち、そのお金で買ったピアノを、「神聖なるピアノ」として、本校は長く伝えてきました。金鶴祭の折にはコンサートなど開きましたが、今朝の廊下の冷気を考えながら、このことを振り返ると、いかに大変な決断だったかに思いがいたります。

さて、新年に皆さんにお伝えしたいのは「目標にいかに近いかはわからない」というお話をします。

ピアノやバイオリンなど楽器を練習した事のある人は、教則本の練習曲をだんだんとマスターしていくと思いますが、新しい練習曲に手をつけると、これまでになかった困難に出会い、どうしてもあるフレーズを弾くことができなかつたということはよくあります。けれど、しばらく上達すると、そのフレーズも何事もなく弾けるようになって、どうしてこれが弾けなかつたのだろうと不思議に思います。しかも、いつ弾けるようになつたのかは、私たちにはわかりません。おそらくスポーツにもそのようなことがあるのだと思います。

子供たちはなぜ突然自転車に乗れるようになるのでしょうか。私たちは小さいころ自転車に乘ろうとして、何度も何度も失敗しました。すいすい乗れている友達がうらやましくて、投げ出したくなるのですが、それでも頑張っていると、突然、乗れるようになり、その後再び乗れなくなるということはありません。その瞬間は突然訪れ、私たちにはそれが一つのことになるのか、あらかじめ知ることはできませんでした。

目標にいかに近いかは学習者にはわからないのです。

このような、できなかつたものが突然できるようになる現象は学習心理学では「経験が閾（しきい）値を超える」と表現されます。経験を反復することで脳内回路が整理、強化されて、合理化されるのに時間がかかるのです。学習者にとっては、努力しても変化が見えない停滞期やもう投げ出してやめたくなる潜伏期にはつらい思いをするのですが、あなたの努力は着実に閾値に近づいています。

何10時間と外国語のリスニングに取り組んできて、ただの音の塊にしか思えなかつたものが、だんだんとまとまった意味をもって脳の中に飛び込んでくる。今日私が皆さんにお伝えしたいのは、学習者にはそれがいつなのかは、わからないということです。

私は英語の教員ですが、英語の先生は大体どれくらいの語彙を知っていれば、どれくらいの読解やリスニング、作文の経験があれば、その課題が理解できるのかわかります。けれど、学習者にはわからない。往々にしてあとどれくらい経験を積まなければならぬ

か、これから努力を過大に評価してしまいがちです。

みんなの努力は必ず報われる。それは学習でも班活でも、どんな活動でも同じです。
「目標にいかに近いのかはわからない」3年生の皆さん、この言葉を胸に、残された時間をやり切ってください。1・2年生の諸君も今年は何か大きな目標に、辛抱強く取組んでいってください。

今年一年が皆さんにとって明るく、健やかで、実り多い年になることを祈っています。
それでは、また一年がんばりましょう。